

西濃圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
5	変更	大垣市民病院	大垣市	<p>【現状、特徴】 西濃医療圏の中核基幹病院として、高度で専門的な医療施設や医師・歯科医師臨床研修病院の環境を整備している。二次医療圏唯一の救命救急センターの運用や、地域がん診療連携拠点病院(高度型)、地域災害拠点病院、岐阜県地域周産期母子医療センター、小児救急医療拠点病院等の指定等を受け、質の高い医療を提供している。</p> <p>【課題】 医師を安定的に確保するため、地方都市にある当院が研修医に選ばれる病院になり、いかに医師に定着してもらえるかが課題です。また、老朽化する施設に対し求められる医療機能に応じた計画的な整備が必要です。</p>	西濃医療圏の高度急性期・急性期医療、特に救命救急、災害拠点、がん拠点、周産期、小児救急等の中心的役割を担います。		実施済み					令和4年11月1日に急性期機能病床を86床削減した。
7	新規	大垣病院	大垣市	<p>【現状、特徴】 院内の精神科部門や他院からの身体疾患慢性期患者様の治療を中心に主に慢性期治療の病棟運営をしている。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症患者への対応をするようになり、スタッフのスキルアップや病棟の装備等、根本的な病棟運営の見直しをすることが必要となった。</p>	院内における新型コロナウイルス感染症発症患者への対応及び回復患者への継続治療対応などを求められている中で、回復期から急性期までの幅広い患者への対応を見据えた病棟運営を考えていく。	○						院内における新型コロナウイルス感染症発症患者への対応及び回復患者への継続治療対応などを求められている中で、回復期から急性期までの幅広い患者への対応を見据えた病棟運営を考えていく。
15	新規	近藤眼科医院	大垣市	<p>【現状、特徴】 外来患者中心</p> <p>【課題】 なし</p>	外来中心の地域医療の充実		○					約5年以内に削減予定検討中
21	新規	大垣整形外科	大垣市	<p>【現状、特徴】 外傷、成人及び小児慢性疾患等の整形外科疾患に対して、保存的治療、手術加療を行っております。3人の整形外科専門医が診察、画像診断、様々な検査を駆使し迅速な診断、治療を行い患者の社会復帰、生活改善を図っております。</p> <p>また、患者の状態に応じて2次、3次医療機関への患者紹介や、整形外科以外の疾患に対して近隣の診療所への患者紹介、治療終了後は逆紹介を受けるなど地域の医療機関との連携を行っております。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルスの蔓延によって、新興感染症に対する診療体制の改善が必要となりましたが、十分な設備投資、物品確保、人員確保が難しい状況であります。しかし、可能な範囲で対応を検討しております。</p>	2025年の超高齢化社会に向けて、当院としても高齢者の外傷、慢性疾患への対応が増加すると予測されます。治療終了後の介護への速やかな橋渡しをするため、これまで以上に医療担当者、家族、介護担当者との連携を図る必要があると考えております。 2025年の超高齢化社会の到来と共に生産年齢人口減少が危惧されております。当院では患者が早期に社会復帰し、健康を維持できるよう医療提供する必要があると考えております。					○	高齢者の圧迫骨折、下肢の骨折、上肢の骨折が増加しております。2次・3次医療機関では対応されないが、自宅での生活が不可能な高齢者にたいして入院加療を継続する必要があります。入院することで、患者、患者家族では不可能な疾患の管理、ギブス管理を専門的に行い、機能回復のためのリハビリを行っております。このように対応することで病状悪化を防ぎ、確実に機能回復が得られております。また、2次、3次医療機関では入院の必要がないと判断されたが、自宅では疼痛コントロールが不可能な脊椎疾患、関節炎に対して、当院では入院による治療や、リハビリ介入が可能であります。いずれも患者の健康を回復するために必要な病床であると考えております。	
31	新規	小林医院	揖斐川町	<p>【現状、特徴】 急性症状や、泌尿器の生検等での検査入院等を想定し、病床を用意しているがここ数年は入院はない</p> <p>【課題】 入院が必要な患者がいない</p>	入院が必要となる患者に対し引き続き病床を整備していく						○	近年入院が必要な患者はいないが、今後泌尿器系の患者の増加が見込まれることを想定し病床を維持する